

在来種・固有種の貴重な植物が 私達の周辺にあり、 そのいくつかは風前の灯火

便り



第4号 平成22年5月発行
編集：海津西浜知内地域文化的景観まちづくり協議会

重要文化的景観は、文化財保護法での定義に「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地」とあって、単に文化的な風景というだけでなく、その地域に住む人々、つまり私達の祖先からの暮らしや自然環境が重なりあって作り上げられてきた風景のことをいいます。

今回は、選定までの調査の中で、その成り立ちや特性などが明らかにになった自然的な要素の紹介をします。

海津・西浜・知内およびその周辺市域では、これまでから湖岸の砂浜にタチスズシロソウ、ハマヒルガオ、ハマダイコンなど珍しい海浜植物が多く分布するところが知られていました。今回の調査でもとくに西浜地先の湖岸の砂浜には、多くのタチスズシロソウが生育していること

が分かりました。これは、湖岸に住む人これは、湖岸に住む人たちが砂浜の除草を行うことで、雑草類の侵入が抑制され、古くからあるタチスズシロソウなどが生き残りやすい環境が維持されてきたためと考えられます。しかし、その一方でキャンプ場の整備や砂の入れ替えなどで、在来の植物が生息できる範囲が少なくなっているのも事実です。



みで見られるイヌスギナ、在来で絶滅の危惧があるといわれているヒメミノハギやミズワラビなどの水田雑草が生育しています。こうした在来の品種が数多く残っている沼や水田は全国的に少なく、この地域の貴重な（裏面へ続く）

地域内に

は、いくつかの沼や湿地・水田などがあり、

ここには近畿地方では滋賀県の北部2カ所の

海津 西浜 知内
三十六景
其の4

砂浜の草花

琵琶湖岸に生育する

海浜植物ハマヒルガオは海岸のものと分かれて独自に進化していることが

最近の研究の結果

わかったそうである。

琵琶湖を始めて見る人がよく、海のようにだとして

それは、あたり前のものだ。



松や砂浜は当然のこと、

地面に生えている植物も

似通っているのだから。

琵琶湖の砂浜の植物は、

遠い昔に海にあった植物が

特別の進化を今している

太平洋の孤島ガラパゴスと同じ

悠久の地球の歴史の証人が

私達の目の前にもあるのだ。